

# CASBEE® - 建築(新築) 2021年SDGs対応版 | 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版\_追加版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2021SDGs(v2.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)新保健施設等複合施設新築工事	階数	地上4F
建設地	東京都墨田区横川五丁目7番4号	構造	S造
用途地域	第一種住居地域、準工業地域、防火地域	平均居住人員	244 人
地域区分	6地域	年間使用時間	1,920 時間/年(想定値)
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2024年6月 予定	評価の実施日	2024年3月11日
敷地面積	5,336 m <sup>2</sup>	作成者	田中 貴久
建築面積	2,716 m <sup>2</sup>	確認日	2024年4月12日
延床面積	9,640 m <sup>2</sup>	確認者	山本 亨



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 2.3**

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100% (138 kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

②建築物の取組み 61% (46 kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

③上記+②以外の 61%

④上記+ 61%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 建築環境SDGsチェックリスト評価結果

3(保健)	2.6
4(教育)	2.5
5(ジェンダー)	2.3
6(水・衛生)	2.4
7(エネルギー)	2.3
8(経済・雇用)	2.2
9(イノベーション)	1.8
11(都市)	2.3
12(生産・消費)	2.4
13(気候変動)	2.2
15(陸上資源)	1.4
17(実施手段)	2.8

\* SDG1,2,10,14,16は他のゴールに集約されています

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q 環境品質** Q のスコア = 3.8

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.7

音環境	3.3
温熱環境	3.1
光・視環境	4.0
空気質環境	4.6

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.6

機能性	3.7
耐用性	3.8
対応性	3.3

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 4.1

生物環境	3.0
まちなみ	5.0
地域性・	4.0

### LR 環境負荷低減性

**LR のスコア = 3.8**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.9

建物外皮の	4.9
自然エネ	4.0
設備システ	4.1
効率的	2.5

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.6

水資源	4.0
非再生材料の	3.6
汚染物質	3.6

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.7

地球温暖化	4.5
地域環境	3.7
周辺環境	3.0

3 設計上の配慮事項		
<b>総合</b> 利用者に配慮し、F☆☆☆☆を使用している。 ライフサイクルCO <sub>2</sub> 排出率の低減に努め、地球環境保護に配慮している。	<b>その他</b> 特になし。	
<b>Q1 室内環境</b> 開口部遮音性能:T-2以上。 加湿機能・除湿機能を有し、かつ45%~55%の範囲の湿度を実現することが可能な設備容量が確保されている。 1.5% ≤ [昼光率] < 2.0%。そして、ハイサイドライトを	<b>Q2 サービス性能</b> 事務室の天井高2.7m。 リフレッシュスペースが執務スペースの1%以上。 建築基準法に定められた25%増の耐震性を有する。 節水型器具を採用している。	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b> 植栽により、良好な景観を形成している。
<b>LR1 エネルギー</b> BPI = 0.81 BEI = 0.46	<b>LR2 資源・マテリアル</b> 節水コマなどに加えて、節水型便器も採用している。 雨水利用をしている。そして、雑排水等を利用している。 LGSを使用している。 ODP=0、GWP=3の発泡剤を用いた断熱材を採用。	<b>LR3 敷地外環境</b> ライフサイクルCO <sub>2</sub> 排出率61%。 燃焼機器を使用していない。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される